



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

同窓会報

平成26年度 第2号
(平成27年3月発行)

発行所
世田谷区大原1-4-6
東大原小学校同窓会

発行人
野地勝彰

これからの同窓会

同窓会長 野地勝彰(二四回生)

今年度もこの三月で終わります。計画どおりにすべて滞りなく活動することができましたのも会員皆様のご支援ご協力あつてのことと深く感謝申し上げます。

昭和三十六年に再建の総会を開いてから半世紀以上にわたり活動を続けて来られたのも先輩役員諸氏のご努力と会員皆様のご協力の賜物と頭が下がる思いです。その同窓会が創立以来の転換期を迎えようとしています。

皆様ご存知のように来年の三月で東大原小学校は昭和二年第三荏原小学校創立以来八十八年の歴史を閉じて、四月からはまず守山小学校と統合、その後北沢小学校と統合することが決まりました。そして新しく下北沢小学校としてスタートすることになります。校舎は現東大原小学校の場所に新築されますが、この会報ではその内容や新校準備の進捗状況などを二ページ目から詳しくご説明することにしました。

同窓会として今後の活動と新校にどう対応していくのが来年度即ちこの四月からの大きな課題です。この一年間役員会で議論をつくし、その結果を来年の同窓会総会にお諮りしてご賛同を得られるようにいたします。同時に閉校行事への参加、記念誌の発行メモリアルルームの内部設計、来年の総会の準備など検討課題が山積んでいます。

東大原小学校の発展と考えて新校との関係も緊密にしたいとは思いますが、今後の同窓会の組織形態として、新校



卒業生も包含できるものにするか、新校卒業生は別の組織とするか、が検討課題です。また組織の名称をどうするか、東大原小学校同窓会という名前を残すのか、新しい名前にするのか、ということも検討課題です。会員の皆様にもご意見ご感想をいただきたく、同窓会宛にメールまたはファックスにてお寄せ下さるようお願いいたします。

同窓会、学校とも大変忙しい今後になりますが皆様には今まで通りご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

記念誌発行へのご協力をお願いします

来年三月の東大原小学校閉校へ向けて記念誌を作る計画を進めています。規模や内容は未定ですが例年にも増して会員皆様のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

平成二十七年定例総会のお知らせ

四月十九日(日) 同窓会総会が開催されます

今年は今後の同窓会活動をどのように続けるのかを議論する総会と、皆さんでしみじみと古き校舎を味わいながら旧交を温める楽しい懇親会にしたいと考え、例年企画していた先輩の講演はお休みとし、皆で楽しく歌ったり音楽演奏を楽しむ催しを企画しております。

なくなってしまう懐かしい体育館で心行くまでおとめとわらべの時代に戻りましょう。お誘い合わせのうえ奮ってご参加ください。

日時 平成二十七年四月十九日(日)三時から五時半まで
場所 母校体育館

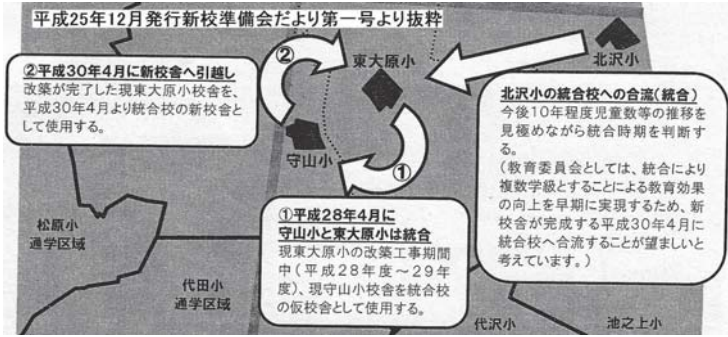
新校統合関連の情報

同窓会報編集部会 臼井良雄（二七回生）

同窓会では新校統合の計画が発表された時から区や学校が行う関連の説明会には必ず出席し、必要に応じて意見を述べてまいりました。平成二十六年十二月には、東大原小学校解体後の平成三十年三月に竣工する新しい学校の基本設計が纏まり、説明会がありました。この場を借りて同窓会の皆さまにお伝えしたいと思います。

● 統合される学校群

北沢小学校がどうなっているのかという話が今でも良く出ますが、今度の新校は北沢小学校と守山小学校と東大原小学校の三校が統合されます。このことは、平成二十五年九月に世田谷区教育委員会が住民説明会で配付した資料『世田谷区立小・中学校の適正規模化・適正配置に関する具体的な方策（第二ステップ）』に「対象となる学校群 B 地域」として明確に記載されています。但し統合の時期については守山小と東大原小は平成二十八年四月と明記されていますが、北沢小統合の時期については、今後十年程度児童数等の推移を見極めながら統合時期を判断すると記載



されています。また平成二十五年十二月発行の『守山小学校・東大原小学校・北沢小学校 新校準備会だより 第一号』には、北沢小の統合校への合流として「教育委員会としては、統合により複数学級とすることによる教育効果の向上を早期に実現するため、新校舎が完成する平成三十年四月に統合校へ合流することが望ましいと考えています」というコメントが付記されています。

● 統合の時期

守山小と東大原小は平成二十八年に統合され、下北沢小学校という校名になります。新校は現在の東大原小が取り壊されその地に新しい建屋が完成するまでは現守山小を仮校舎として使用します。新校舎完成後平



成三十年四月に仮校舎から移転します。

● 新しく建設される校舎

新校舎については同窓会も関心が高く、今まで三回開かれた住民説明会にはかならず出席し意見も出しています。その結果色々な提案が前向きに取り込まれた設計案が平成二十六年十一月二十八日の説明会に出て来ました。

住民説明会で出た色々な意見、安全性への配慮や近隣の生活圏への配慮の為の周辺歩道の整備、地下を利用した倉庫スペースの増設、南門（正門）、東門、北門の設置と西側からの給食等搬入口の設置、その他同窓会がお願いしていた過去の歴史を保存し住民や同窓会などが利用できるメモリアルスペースの確保、岩石園や陶芸窯、二宮金次郎像なども全てきれいに受け入れていただきました。

素晴らしい小学校が出来そうです。ガラス壁面を多用した明るい内部空間は多くの児童がクラスを超えて交流することを前提にしており、校舎や体育館の二階側面に張り巡らされたバルコニーやキャットウォークからは校庭で行われる運動会などが見物出来、エレベーターもありますから、高齢者の住民でも、車いすのまま体育館の二階から運動場の催しを見物できます。また体育館の屋上部分にプールを設け、グラウンドの面積も従来の二、二五〇㎡から約三〇〇㎡増加して二、五八五㎡になります。

私達東大原小学校の卒業生には懐かしい母校が無くなるのは淋しいことなのですが、こうして明るくて広々とした、そして安全性の高い新校に子供達が入学出来、昔の私たちがそうだったように多くの同級生と交流が出来る環境が整ったこと、その計画に学校関係者や私達住民や同窓会が参加出来、いささかの貢献を果たす事が出来たことは喜びとしなければいけないと思いました。

創立八十八年の歴史輝く

母校に別れを告げる日

宮川 英子（一三回生）

朝夕仰ぐ神山富士の

正しき姿 清らの心

わが明けくれのかがみとこそ

よき日本人わがちかい

のぞみ気高き、

学舎ゆかし東大原小学校

昭和二年に誕生した母校は、その名を第三荏原小学校、東大原国民学校、東大原小学校と呼称を変えながらも、一万二千名を超える児童を、立派に育てて世に送り出した。卒業生の中には、日本の政治、経済、教育、文化などの各分野で指導的立場に立ち、世界にもその翼を広げている方もいる。更に、多くの卒業生が良き父となり、母となつて、明るい日本の家庭を築いてきた。

そして今、多くの若い卒業生が、これからの日本を支えるべく勉学に励んでいる。みんな、みんな、母校が大好き、そこで共に学んだ友を生涯の友としている。折に触れ、同期会、クラス会などで旧交をあたためれば、背筋を伸ばして歌うのが「朝夕仰ぐ…」なのである。この地に生まれ育つた家庭は、三代そろつてこの校歌を歌うと聞く。こんな素晴らしい母校がこの地から消え去る、なんて悲しいことである。

しかしながら、少子化の時代は如何ともするすべもない。この傾向は、世田谷、東京のみならず日本全体の悲しき現実なのである。文部科学省有識者会議は平成二十六年十二月二十五日「公立小中学校の統廃合を促すため、全学年合わせて6学級以下の小学校は統廃合の適否を検討する必要がある」などとする目安を盛り込んだ指針案をまとめた。（読売新聞）

公立小学校の適正規模は三組×六学年の八学級または二組×六学年の十二学級としている。小規模校でも、それなりの有効な教育が行われることも確かにあるだろう。しかし、六年間に、クラス替えも含めて多くの友と交わつて切磋琢磨し、何人もの担任教師の指導を受けることは教育的価値がある。父母もまた然り。十八学級あれば、ベテラン、中堅、新卒とバラエティに富んだ学年経営が可能となりその協力により学習指導も研究されて有効な教育が推進できる。別の見地から考えても、小規模校三校を統合して適正規模校とすればその教育予算は、大きく変わる。

東大原の現在の校舎は二十八年四月から解体工事は始まり、完成まで子どもたちは守山小学校の校舎で学ぶこととなる。新校舎は校舎を下北沢小学校として平成二十八年四月開校する。同時に現在の校舎の解体が始まるので子ども達は不自由ながら新校舎完成平成三十年春まで現守山小学校の校舎で学ばなければならぬ。

八十八年の歴史輝く母校への惜別はほんとうに悲しいが、これから学び、巣立ちゆく子どもたちのために、工事の安全、完成と、新校舎発展を心から祈つていくことが、先輩の責務であり、願いである。

母校が無くなつても、これまでの同窓生の絆は永遠に絶えることはない。これからも、東大原（第三荏原）小学校の卒業生であることを誇りとし、折に触れて旧友と集い、思い出の校歌を歌つていきたい。

年ごと時をたがえず咲きて

桜の花もしめすか誠

わが永久のほこりとこそ、

よき日本人わがねがい

教えとうとき、学舎たのし

東大原小学校

宮川英子様は昭和二十三年から三十六年迄母校教員として勤められ、平成二十年から二十三年には同窓会会長をお務め頂きました。原稿ありがとうございます。（編集委員会）

平成二十六年年度の同窓会活動

(一) 会報の発行は二十五年と同様、年二回の会報作成を実施。第一号は五十五歳以上で住所が判明している会員全員対象で約三千部を印刷・発送、第二号は会費納入者対象で約一五〇〇部を印刷・発送しました。本年度会費納入者は平成二十五年の五五〇人より一%減少し五四五人、現時点での同窓会員総数は一二、二五四名、住所の分っている人は五、二四九名。寄付を頂いた同窓生が二五一名でした。

(二) 月々の活動

四月…総会後最初の活動は、二年間お世話になつた大野校長先生の肖像写真を校長室に飾ることでした。同窓会は今まで母校の校長先生が代わるたびに、広瀬写真館にお願いし、退任校長の肖像写真を撮り、額装して校長室に飾っています。

そして新しく赴任なされた片山校長と青鹿副校長を交え新旧校長歓送迎会をPTA、親父の会、町会の皆様などと企画し、交流致しました。

八月…下北沢商店街に協賛し阿波踊りを楽しみました。

九月…恒例の同窓会懇親旅行を新潟県六日町の越路荘を拠点に実施しました。新潟で一番古い伝統を持つ玉川酒造を見学し、天然の冷蔵庫を使って造られる珍しい日本酒の数々を味わい、八海山ロープウェイに乗るなど皆童心に帰って楽しみました。

十一月・盛り沢山でした。恒例のアートでつなぐ東大原プロジェクトに協賛、楽しいマジックを子供たちと一緒に母校体育館で楽しみました。また親父の会主催の校庭一泊キャンプに協賛し、親父の会の皆さまと校内胆試し大会のお化けになったりして童心に帰りました。そして母校学芸会では、子供達の素晴らしい演技に驚嘆、特にくるみ学級の楽しい劇や、一年生の全員参加の楽しい集団劇に感動しました。

末には新校の設計状況の中間報告会が二回あり、両方に出席いたしました。

十二月・恒例の同窓会文庫の打ち合わせで本年度二回目の同窓会文庫寄贈本を選定しました。今年度は全部で四七冊の寄贈になりました。恒例のくるみ学級と一年生合同の餅つき学習への参加では子供達と一緒に餅をつき、給食をともしするという楽しい経験をしました。そして校庭解放委員会の大餅つき大会、地域の方々が子供達と校庭に集まって四つ臼で大量の餅を搗くのです。きれいなお母さん達と一緒に汗しての半日、楽しい思い出です。

一月・もう同窓会報を出す準備、卒業生に例年差し上げている「三年日記」の手配、新入一年生に例年差し上げている「なわとびの縄」の手配等があります。そして二月・三月は総会の準備、同窓会の世話人達も結構忙しいようです。

(二)その他

東日本大震災の被災者に対する義援金は、昨年度と同額の三万円とし、日本赤十字社を通じて寄付致しました。

学校統廃合の話が出て以来、同窓会としても説明会へは毎回出席し、意見を述べています。また守山小学校の跡地利用に関する打ち合

わせ会にも毎回出席をしています。本年度の同窓会理事会は三月までに六回、評議員会は三回いずれも母校ランチルームで実施しています。

定着した「アートでつなぐプロジェクト東大原」

三三回生 益井 純子

秋晴れの十一月三日、母校東大原小体育館でアンディ先生のマジックショー&イリュージョンショーが開催され多くの参加者がマジックのもつ不思議・驚き・笑い・に楽しいひとときを共有することができました。

太鼓(二回)、伝統芸能、クラウンの至芸等今年で五回目となり、その都度地域の子どもから大人までが一堂に会し、文化芸術体験を通じて心の交流と地域の絆を深めてきました。特に今年度は三校統合が目前に迫り北沢小、守山小、東大原小全児童に子ども券をチラシに添付して直接の呼びかけを実施した結果、たくさんの子ども達の参加がありました。「生でマジックを見たことがなかったのとつてもリアルでおもしろかった」「友達が浮いているのが不思議だった」「子どもたちの反応を見ていただけで元気が出てくる」等たくさんのお声に元気をいただいたいます。五回目となります。地域に共感・共有の輪が広がり、住民同士の面識の広がりが少しずつですが実感できるような



りあいさつを交わすことも多くなりました。今年も同窓会をはじめ、おやじの会、商店街、各町会の皆様方からご支援ご協力をいただきました。子どもたちの文化芸術体験を通して生きる力や豊かな環境づくりの為に同窓会はじめ地域の大人の連携をこれからもよろしくお願いいたします。

クラス会

「メールの会」という忘年会

大竹英一 (二七回生)

平成二十六年の暮れ、この年もメールの会・忘年会という二七回生(六年二組、関口皓二先生)の会が、下北沢南口の消防署隣の「かつ良」で開かれた。もう十三年も続いている。当初は六年二組の有志が七人前後集まっていたが退職者が増え、共に参加者も増え、同期の他クラスの人も顔を出すようになった。例えば、一組の石田君、白井君、三組の赤尾君、足立君らである。メールの会は同級生の



渡辺翠さんが、銀座でピアノバー「メール」を経営していた時に、五十代になって級友たちがそこで顔をあわせるようになり、多くの同期生が東大原小卒業以来の再会の場となり、事実上の同窓会となった。以来、二組の人数外の二七回生も含めて「メールの会」の誕生となった。今回の忘年会には、女性五人を含む十五名の級友が集まった。遠くは三島から永野勝一君、北杜市から赤尾君が毎年参加、鹿児島産の黒豚を鍋で頂き、本場の焼酎を飲みながら「六年二組」に帰って大いに語り合った。

午後三時に始まった忘年会も五時にはお開きとなり、師走の下北沢の街から帰宅する人、二次会場の多宅へ向かう人とそれぞれ「またね」と言って再会を約して別れていった。今、八王子市北野にお住まいの関口先生は八十九歳になられて健在である。

(参加者)青木治代(麻田)、赤尾英城、足立遼三、石橋靖生、白井良雄、大竹英一、大場威久雄、多則央、尾村彰彦、香中敬子(筒井)、杉山朝子(塩見)、永野勝一、若王子和子、水口宏道、渡邊翠

会う楽しみ、美味しい物食べる喜びのクラス会

山口健司(二九回生)

会えば楽しいクラス会、二九回生六年三組同級会を今年も十一月二十日(木)京王プラザ「グラスコート」にて開催しました。ピュッフェ方式の昼食を兼ねた一次会は、貸しきった一部屋で久しぶりの再開と元気な様子に花が咲き、純米大吟醸の酒とビールでのどを潤し、何でも有りの料理を満喫しながらの二時間十五分でした。

前日に急に仕事が舞い込んだり体調を崩したために、二名の方が欠席しましたが、十三

名の出席を得て、あつちこつちに歓談の輪が出来、花が開きました。

日本一周をしてきた船旅の話しや念願のイスへ行つた事、国内旅行、温泉めぐり、ゆつくりとどこへも行かず夫婦の語らいなど話はつきませんでした。中には、観音菩薩立像を五年近く丹精を込めて作り上げた本物を持参し披露してくれるなど、クラスメートの一人ひとりが幅広い人生経験を元気に歩んでいる様子が話し合われました。

今回参加できなかった方(十一名)から、「来年の開催月を前もって教えて欲しい」「毎年開いて欲しい」と言う要望が出され、みんなの意向として「九月中」に開催するよう話し合われました。

担任の樋口慶子先生のご主人様が、本年九月三日、九十四歳にて逝去された事を参加者に伝えました。(合掌)

二次会は、まだ話したりない方が参加しましたが、結局全員が参加し、あわせて、二次会から参加した一名も加わって、氷雨降る五十四階のビルの一室から見通しのきかない夕闇の東京を後に散会しました。「また来年も元気で会いましょう。」を合言葉に!



古川先生のクラス会報告

田中清子 (三一回生)

昨年は四月と九月の二回クラス会がありました。

四月は私達の卒業した東大原小学校が二年後には統合されること、トヨタ自動車会長の張富士夫さんが同窓会でお話ししてくださることをお知らせして同窓会開催日に合わせ、下北沢西口の中国料理店『天華』に秋山・子安・芝谷・松本・宮越・舞木・守屋の男性七人と飯島・白井・津田・広瀬・武藤(いずれも旧姓)の女性五人計十二名が集まりました。私達のクラス会は年に二回春と秋に集まってお昼を一緒に食べ、解散というあっさりした会ですが毎回遠くから参加してくださる方もいて、楽しい一時を過ごしています。この時はいままで連絡がつかなかった武藤章子(旧姓)さんと津田真知子(旧姓)さんのお二人が出席して下さい、卒業以来のご対面に、「誰かわかる?」「?」の挨拶から話は小学校時代の思い出話へ。



大いに盛り上がった一時でした。クラス会終了後は全員が東大原小学校を訪れて同窓会に参加しました。

昨年度第二回目のクラス会は九月二十八日下北沢西口近くのイタリアン、『ラ・ベヴァーナ』で山・石井・小池・芝谷・宮越・守屋・川瀬(飯島)・田中(臼井)八人が顔をあわせ元気を確かめました。

今年(戦後七十年目)の年になります。終戦の年に生まれた私たちは古稀を迎えます。

四年生から卒業までの三年間私達の担任だった古川一郎先生は悪性リンパ腫のためお亡くなりになりましたが、いつも先生とご一緒にこの会に出席して下さいました奥様からこのようなお手紙をいただいておりますので一部をまとめてご紹介させていただきます。

『古稀を迎えられる(驚きですが)皆様方にはぜひともお会いしたいと思っております。毎年八月が来る度に(終戦記念日)皆様のお歳と東大原小の皆様とを重ねて、とても感慨深い気持ちになります。

皆様本当にそれぞれの道をしっかりと歩まれ、そしてこれからも皆様お一人一人のペースで豊かな人生を送られますことでしょうか。節目の年前後はどうぞお体に気を付けて、お健やかに古稀を迎えられますようにと願っております。』(古川忠子様より)

今年のクラス会は奥様を是非ともお招きして何か思い出に残る会にしたいと前回集まった人たちと話合いました。会場は吉祥寺の第一ホテルを予定しています。六年三組卒業生五五名のうち現在連絡がとれているのは二七名です。全員集合!

とは言いませんがお知らせが届きましたらどうぞ出席のお返事をお願いいたします。

次の世代に残すべきことは……

高橋一夫(三二回生)

「母校が無くなってしまう!」と聞いて、これは一大事、校舎の面影が残っているうちに一度クラス会を、と思いたった有志が連絡を取り合い、昨年十一月初旬、三二回生六年四組のクラス会が十七年ぶりに下北沢で行われた。

ちなみに私達の期のクラス担任は、あの著名な須田先生、かの怖かった(?)川崎先生、そして今でもお元気との消息があった望月先生、そのお三方が各二年づつ受け持った下だった。最近の傾向こそ判らないが、当時、生徒の側はいえ、六年間を通してクラス替えはなく、おのずと共有する思い出も多くなり、クラス会当日、見納めということで訪れた懐かしの校舎を前にして、昔話に花が咲き、なかなか現地を離れたい体験をしたものである。

さて、こうした昔の友が久しぶりに集まり、談笑すると必ず交わされる言葉がある。「昔は良かった。それに比べて今の子供達は……」。

その人の生まれ育った時代、環境によつてそれぞれ思い出も少々異なってくるかも知れないが、私たちがいわゆる世間で言う「団塊の世代」の走りにとつては、「今の子供達は可愛そう!」にどうしてもつながつてしまう。これはやや大袈裟に言うのと、私たちの世代が近代史上もっとも恵まれた時代を過ごすことが出来た集団と言えるのでは、ということに起因しているようだ。

戦後、わが国は新憲法下、「二度と戦争は起こさない、巻き込まれない」とのかけ声のもと、新生児は増え、復興の勢いは力強く、生活は豊かに……まさしく「希望に満ちあふれた」時代を経験してきた。そしていわゆる「バブルの崩壊」と共に昭和の時代が終焉し、それ以降今に至るまで「明るい未来」は封印されてしまったままである。

そんなわけで、日ごろ子供達(孫の世代)と接

して、その将来は一体どうなってしまうのかと考えるだけで不安は募る一方だ。
久しぶりにクラスメートと旧交を温め、昔は良かった、楽しかった、と懐かしむのもよし。けれど、私たちが今まで生み、育ててきた次の世代の将来を考え、それなりの責任ある「かたち」を残して行くことも大切ではなからうか、と思いつく。ましてや、年が明けて難問山積みの「日本国」のことを思うとなおさらである。



欠番号卒業記念アルバム寄付お願い

同窓会では今、過去の卒業記念アルバムを集め同窓会文庫に保管していますが、新校設立後はこれを整備してメモリアルに並べる予定です。左表に掲げた年の卒業アルバムが欠けています。お持ちの卒業生有志の方々へ同窓会文庫への寄贈をお願い致します。扉に寄贈者の名前を明記し永久版として、大事に展示させていただく所存です。

但し数字は(卒業年昭和・西暦)及び(卒業期回数)

昭和3年 1928年 1回生	昭和4年 1929年 2回生	昭和5年 1930年 3回生
昭和6年 1931年 4回生	昭和7年 1932年 5回生	昭和8年 1933年 6回生
昭和9年 1934年 7回生	昭和10年 1935年 8回生	昭和11年 1936年 9回生
昭和12年 1937年 10回生	昭和14年 1939年 12回生	昭和15年 1940年 13回生
昭和16年 1941年 14回生	昭和17年 1942年 15回生	昭和18年 1943年 16回生
昭和19年 1944年 17回生	昭和20年 1945年 18回生	昭和21年 1946年 19回生
昭和22年 1947年 20回生	昭和23年 1948年 21回生	昭和24年 1949年 22回生
昭和25年 1950年 23回生	昭和26年 1951年 24回生	昭和27年 1952年 25回生
昭和28年 1953年 26回生	昭和29年 1954年 27回生	昭和30年 1955年 28回生
昭和31年 1956年 29回生	昭和32年 1957年 30回生	昭和33年 1958年 31回生
昭和36年 1961年 34回生	昭和42年 1967年 40回生	昭和45年 1970年 43回生

昭和45年(1970年)以降のものは揃っております

「東大原小学校の思い出」作文募集

東大原小学校は平成二十八年四月一日をもって統合新校となり名称も校歌も校舎も変わります。同窓会は八十八年に渡る東大原小学校の歴史を新校に残したいと願い、新校内にメモリアルルームの設置をお願いしています。そしてその中に収納・展示する種々の資料の収集も始めています。今回の作文募集はその一貫で、東大原小学校での最後の同窓会迄には文集(記念誌)にしたいと考えています。また巻頭で野地会長がお願いした、同窓会自体の今後のあり方についての御意見もお願いいたします。

皆様の応募をお待ちしています。手紙やFAXでもデジタルデータでメール添付でも結構です。下記同窓会連絡先へご送付ください。

皆様の「ご意見」をお寄せください

平成二十八年四月から統合により新しい名前の学校になります。同窓会として新校への活動をどうして行くのかを検討中です。理事会では「今まで通り東大原小学校に対して行った活動を新校にも継続して行なおう」という意見が多いのですがこの点について皆様の「ご意見」是非伺いたくこの場を借りてお願い申し上げます。これ以外でも統合後の同窓会のあり方や活動についてなどご意見、ご感想をお待ちします。送付はファックス、手紙またはEメールで、同窓会連絡先下記宛てお願いいたします

編集後記

七十を超えて最近スマホを使い始めネットを見る時間が増えた。東大原と入力し検索すると数十ページの記事が出てきて驚く。同窓会のホームページをまず見て、次に東大原小学校のページへ、すごい更新回数で驚く。ほぼ毎日の出来事が更新されて載っている。誰が?と思ひ内緒で調べたら、新しい片山校長と青鹿副校長が競争でスマホで入力しているようだ。昔は校長なんて偉そうにして細かいことは部下任せ、時代が変わったと実感する。

ミクシーコミュニティ東大原というページも発見。平成元年入学、平成七年三月卒業の方々を中心に、ネット上同窓会を展開。この方々にも是非総会に出席して頂きたいと思った。

同窓会への連絡、問い合わせ、寄稿の送付、送金の方法について

現在の事務局の住所は左記のとおりです。連絡は郵便かFAXまたはEメールでお願いいたします。

郵便番号 一五五・〇〇三一
世田谷区北沢二丁目三五・九
小清水ビル5F
東大原小学校同窓会事務局
FAX 03・5454・5356
Eメール dosokai@higashihara.jp

本同窓会は政治・宗教・思想について中立を守ります。

